



素人“観る将”の視点

最近、ネットTVで将棋のタイトル戦（王将戦）を観戦した。特に今回の王将戦は、藤井聡太王将と羽生善治九段による、令和と平成を代表する不世出の棋士二人による対戦であるだけに、心待ちにしていた。自らは将棋を指すことはない私が「観る将棋ファン（観る将）」を始めたきっかけは、家族がネットで将棋チャンネルを観ていたためであるが、初めて将棋のネット中継を観たときの驚きは今も新鮮に覚えている。

一昔前、将棋の中継といえば、将棋盤の画像と、棋士による大盤の将棋ボードを用いた解説であった。殆ど動きのない将棋盤の画像と、専門家による難易度の高い（ように聞こえる）解説は、素人には敷居が高く、将棋に嗜みのない私にとっては、非常に退屈であり、好き好んで将棋中継をみることなどはあり得なかった。しかし、人工知能（AI）の登場によって将棋中継は大きく変わった。AIによる指し手予想、および勝率予想がリアルタイムで表示され、妙手・悪手の判断や対局の状況を客観的に把握することが、全くの素人でも可能になった。勿論、「藤井聡太」という大天才の登場が極めて重要な要素であることは間違いない。しかし、過去に、羽生九段が当時の全七タイトル同時達成を成し遂げた時と現在の状況を比較すると、それ以外にもAIの寄与は大きいように思われる。当初は将棋ソフト不正

使用疑惑騒動など、AIの登場によって将棋界の存続に関わる困難な問題も生じた。しかし技術的な進歩を排除するのではなく、逆に上手に取り入れることで、将棋の面白さを、将棋に通じた玄人（プロフェッショナル）だけでなく、素人にも開放することに成功したといえるかもしれない。

素人が将棋を観る視点は当然、玄人のそれとは異なる。典型例は「将棋めし」、中でも「おやつ」であろう。タイトル戦対局中、棋士は午前と午後1回ずつおやつを食べる。中継ではそれぞれの棋士がチョイスしたおやつが紹介されるのだ。中継日によっては、試食レポートまで加わるときもある。影響力は非常に大きく、棋士が食べたおやつが全国的に注目される上、最近では某菓子メーカーがタイトル戦のスポンサーにまでなった。「玄人（プロフェッショナル）」はその道の発展に必要である。と同時に、「素人」に活躍してもらう（＝楽しんでいただく）ことも、持続的な発展にとって重要なことなのだと思う。

「多様性を認め、受け入れる」ことの重要性は、幼少期から教えられていたが、比較的均一な集団の中で過ごした青年期まではその重要性を感じることはなかった。しかし、自分が年を重ね、さらに社会構造が大きく転換する中で、各々の働き方（ワーク・ライフバランス）や価値観は非常に多様化していることを実感している。生命科学系の学术界は、少子化に加えて長年のポストク問題を抱えており、新規参入者は細る一方に見える。この状況のなかで持続的な発展を実現するためには、やはり「多様性を認め、受け入れること」が必要なのだろう。言うは易く、行方は難し。自らの価値観を揺さぶられる苦しみさえある。しかし、一步一步、自分にできることを実行したい。

（のふのふ）